

快適なサラリーマン生活を送るためのガイドブック

# 犬・猫・猿・鳥リーマン



2011年5月

松井 邦憲

All rights reserved by MATSUI OFFICE

## はじめに

私がサラリーマン生活を終えたのは、今から2年前の58歳の時でした。ある日、上司に相談があると呼び出され、部門の責任者と上司から早期退職勧奨を言われました。提示された報奨額は、私の予想を超える提示で、1日時間を空けて快諾しました。

その会社は世界的な優良企業で、社員を厚く保証する会社でした。しかし、人間と言うのは賢沢でその事実を辞めてから気付くものです。

さて、今年還暦を迎える私の少年時代は日本の経済は高度成長期でした。当時“植木等”氏の「無責任一大男」で代表されるサラリーマンライフを描いた映画が大ヒットして私も影響を受けました。私が20歳の時に亡くなった父もサラリーマンでしたので、大学を卒業した私は躊躇なくサラリーマン生活を始めました。

当時、私の家庭は母一人、子一人でしたから転勤を伴う会社を避け、名古屋に本社を置く繊維専門会社に入社しました。名古屋の伝統産業である繊維業界の体質は古く、私の少し先輩は徒弟関係に近い経験をし、私自身上下の関係を重んじる会社の体質についていけませんでした。

その結果、当時の学卒にしては珍しかった外資系企業への転職を図りました。

私の困難はそこから始まりました。当時のサラリーマンは学校を卒業してから一社に定年まで勤務する事が常識で、転職ましてや外資系会社に勤務する事は、「何か失敗して、会社を変えた」の認識がありました。また、特に外資系会社には「海千山千の社員が多い」との風評がありました。しかし、私のこの懸念は間違っていました。会社の先輩、上司は普通の人でした。無論、一部の先輩は変わった方もいました。

変わったのは「人との接し方」です。世の中の常識として、「人は、世の中のルールを他人には直接言葉にはあらかず、その人が気付くのを待っている傾向があります。そして、気付いた人のみが仲間に入れる」という私には理解しにくかったルールがあります。私もこの試練を乗り越え組織に仲間入りして、今に至りました。特に名古屋という保守的な慣習をもった地域に特有なルールかもしれません。

その後、職種が企画（マーケティング）にかわり、全国各地の人と接し、また外資系会社特有と思いますが世界25カ国以上の国籍の上司・同僚・部下と接してきました。この様な経験をもつ私が若い人たちに、サラリーマンの生き方を本稿でお伝えしてまいります。

最後までお付き合いいただければ、皆様に何らかの“気づき”があると思います。

## プロローグ

私の仮説を検証する機会があったのは、最後に勤務した会社の研修プログラムに参加した時でした。研修のテーマは“リーダーシップ”で、言い換えれば“自己管理の基本を学ぶ”のが研修の狙いでした。“他者の行動を見て、自分を振り返る”内容とも言えます。

私の仮説は、サラリーマン（女性を含む）はその価値観によって“4つのグループ”に分かれるのではないかというものでした。例えば血液型のA、B、O、ABで性格が異なるというようなグループ分けです。私の仮説は以下の4グループです。

### 犬リーマン

組織の上下を基本として、自分を中心に損得を基本的な価値観とするサラリーマン

### 猫リーマン

組織の横の関係を基本として、好き嫌いを事の判断に考えるサラリーマン

### 猿リーマン

組織の上下も横の関係も認識しながら、損得、好き嫌いより善し悪しを先に考えてしまうサラリーマン

### 鳥リーマン

兎に角、仕事をはじめ生活に関して楽しさ或いは楽な生き方を望むサラリーマン（新種）

です。上記の研修プログラムの中で参加しているメンバーの言動に最大限の注意を払い、この区分が出来るかどうか検証しました。

結果は

- ① 会社勤めにもかかわらず、上下の関係を好まない人たちがいる。
  - ② 多くの方は、損得を判断・行動の基準にしている。
  - ③ 多くの女性及び一部の男性は好き嫌いを判断の基準にしている。
- の傾向を検証できました。

その後のサラリーマン生活で、折に触れ、特に酒席、飲み会で他者を観察して得た結論を縷々説明いたします。

## 推論 1

人の行動に伴う「人の価値観」を考える時に、その違いによって以下の様に分かれるのではないかと考えるのは私の推論かもしれません。

**自律的な規範**：まず自身の事を考え、次に所属する集団の事を考える。決してエゴイズムではなく、自分の事を考える事が出来ない人は集団の事を考える事が出来ないであろうという考え方と思います。

**他律的な規範**：まず所属する組織の判断を前提に物事を考えて集団行動をとる。この考え方を持つ人は「この他律的な規範に従う事が、周りにむやみに敵を作らず、うまく世の中を生きられる」と考え、それが結局 **楽であり、得である** と考えていると思います。

**ミックス (混合)**：上記2つの規範の特徴を知り、世の中を生きる上でうまく使い分けている人。「世渡り上手」と私は思います。

**超越**：聖徳太子の洞察力は「人は群れをなすという特徴がある」です。この認識の上に政りごと（祭りごと：この時代は祭政一致です）を考えると続きます。

農耕民族は集団生活を基本として生きてきました、その結果集団に属する人は、日々の生活を通じて「他律的な規範」を身につけました。一方、狩猟民族は一定の年齢に達すると、一人で狩りに行く事を要求されました。無論、狩猟民族も一定の組織を形成した訳ですが、その生活の中で一人になる場面が多かったのではないかと、私は推測しています。

では、日本人はどうであったかは、皆様がお分かりの様に「農耕民族」であると考えられます。

更に日本の地政学上の特徴として、四方を海に囲まれている島国である事です。その意味で、日本では「狩猟民族」との出会いは無かったと言えます。蒙古の襲来は「騎馬民族」＝「狩猟民族」との出会いの機会でしたが、史実によりますと「神風」が吹いてその襲来を阻止できたとなっています。無論、日本でも狩猟が行われてきたわけですが、それは「マタギ」と称される一部の人たちによって行われました。また、漁業に関しても、日本では集団で行動する漁法が伝えられています、最近話題になっている「捕鯨」も江戸時代では当たり前に行われ、集団で行動する漁獲法は「他律的な規範」を醸成しました。従って、「日本人の多くは他律的な規範によって身を処する人である」という推論に帰結されます。

## 推論 2

「日本人の多くは他律的な規範によって身を処する人である」前提に立って、「どういう経緯(歴史)でそうなったのか」を考えてみます。

日本の社会も古代から階層社会であった史実があります。その極まった時代が 265 年続いた江戸時代と考えられます。厳しい身分制度、士農工商は特別の事がない限り、世襲制であり各身分間の交流は少なかったと言われていました。この時代に「上下の関係」が日本人にしみわたったと思います。但し、この制度の良い点もあります。社会的な地位に関係なく職人および商人が作った江戸文化です。染色・陶芸・絵画・彫金等々今に続く日本の文化を象徴する技術品・美術品が生まれました。政治の江戸、商いの上方で知られる通り、上方文化もこの時代に育った事実があります。これらの業績は身分の世襲制が功を奏したと考えられます。

しかし、江戸末期には外国から援助を受けた薩長土肥藩の下級武士階層による政権奪取が起こったのは歴史の必然と考えられます。しかし、この革命は階層社会の崩壊を意味するものではなく、支配層の入れ替わりでありました。従って、「上下の関係」は維持され、昭和の時代の敗戦後によって、身分制度が無くなりました。しかし、私見ですが平成の現在でも「上下の関係」が残っている事実として、官僚制度の存続による、庶民の考える「お上」の存在です。

とにかく、戦後の日本でも「上下」の関係が重んじられ、「他律的な規範」に基づく考え方が残っている事実は、多くの人が認識するところです。具体的には、教育の現場で残される集団生活での「協調性」の重視、集団の中で個人を評価するための「偏差値」という少ない差を大きく見せる評価指数、社会人になっても「朝礼」「集団でのラジオ体操」「社員旅行」等、海外の会社には少ない慣習が残っています。「飲み会」も日本に多く見られて、欧米に少ないビジネス慣習です。

しかし、情報の国際化、海外留学、海外帰国子女などによって、一般の日本人も「自律的な規範」に基づく考え方との接触、理解が進んできました。私もいまから 25 年前に外資系企業での勤務の職種が営業から企画(マーケティング)に変わってから、外国人と一緒に仕事をすることから「自律的な規範」を学習し、前回とりあげた「ミックス(混合)」の状態を物考えるようになっていきます。25 歳になる子供の行動を観察していると、インターネットで結ばれる彼女等の情報共有のスピードは瞬時です。従って、ビジネスの間では「他律規範」でプライベートの間では「自律的な規範」を使う「ミックス(混合)」が日本人の行動規範になるのではないかと予想しています。

## 世の中の価値観

私の仮説は「サラリーマンはその価値観と、上下についての考え方の組み合わせで区分できる」という物です。

ここで少し横道にそれますが、日本語に特有な言い回しがあります。尊敬語・謙譲語・丁寧語です。いずれも、自分より目上の人に対して敬意を払い使う言葉ですが、特に謙譲語は外人には分かりにくい言語と言われます。これは、日本の社会に根付く微妙な「上下関係」を背景に生まれた使い分けと考えます。無論、英語にも”Modesty”「謙譲」という言葉がありますが、微妙に日本語とは意味が違います。

さて、日本の社会でみられる代表的な価値観を以下に上げます。

### 損得

自分を中心に 損か 得か を考える。

世界共通の価値観であります。

### 好き嫌い

主観的な考え方。感情が伴います。

### 良し悪し

物の品質の良い悪い。

### 善し悪し

行為・性格の善い悪い。

### 筋が通る、通らない

筋は論理です。

### 勝ち負け

勝った、負けた の勝負の世界。

### 正しい、間違い

答えに対しての正しい、間違い。

いずれも、2元論です。

世の中が二つの概念、存在で成り立っている考え方です。陰陽二行説が有名です。一方、1元論、多元論も海外で見られますが、いずれも宗教論に基づくものです。日本では2元論の考え方が一般的であります。

その中で、私が注目しているのは、「損得」「好き嫌い」「善し悪し」の3つの価値観です。それに、日本社会にある「上下の関係」を絡ませて、リーマン分類をいたします。

## 上下の関係

どのような社会、組織でも「上下の関係」があります。利害が絡まない関係でも、「目上の人」はいるものです。海外でも当たり前のようにあります。私の知る限り、旧東ヨーロッパ共産圏出身者の一部に極端な事例がありました。本社から派遣された若いエリートの出身がそうでした。私は直接のレポートラインにありませんでしたが、後輩は直接で彼が休暇申請をそのエリートに出した時に、「**You are lower, cheaper and poor. You should work harder.**」といわれ申請を拒絶されたと嘆いていました。日本語に訳す必要もない、上から目線の侮辱的な発言です。また、知り合いで世界的なIT企業で勤務する中、外人の上司から「パワー・ハラメント」を受けたと聞いております。

「上下の関係」は「使う人と使われる人」の2つの立場（階層）を生みます。企業ではこの関係が連続と続くのです。しかし、一番頂上の社長ですら、その上に複数の株主がいる訳です。同族会社を除いて、経営と所有の分離が実施されている企業ではこの関係が続くわけです。或いは、親会社、子会社、孫会社も同じ様な関係が形成されます。

さて、どの企業でも幹部候補生がいます。彼らは多くは有名大学、大学院を出ています。彼らは企業から特別の配慮を受け一般社員にない特殊な研修を受け、短期間のうちに出世街道を走り抜けます。各ポジションで大きな成果もなく、ただ失敗が無いように黙々と業務をこなすわけです。この事が彼らに不幸をもたらします。危機対応がうまくできないという傾向があります。一方、この道一筋で現場から立ち上がって出世する人たちも多くいます。この人立ちは数々の修羅場をくぐって来たので、少々の困難でも立ち向かう事ができます。現場の「上下の関係」もわきまえ、「使われる人」の悲哀がわかっているはずですが、立場が変わった時点で今までの事を全て忘れ、「使う人」に変身する人が多いのには驚かされます。

上級管理者研修で最初に言い聞かされる話は、「**Every position is replaceable.** 全てのポジションは替わりがいる」であります。「上下の関係」は組織の運営上或いは保持する意味で必要なもので、個人の価値によって役職が決められる訳ではない、ただその個人が他の人に比べて、組織がその役職によりふさわしいと判断しただけです。特に若い管理者、幹部候補生はこの事を肝に銘じなければならないと思います。

現代社会における様々な価値観は、単に出世を望むサラリーマンだけでは無い事を意味します。

多様性に富む価値観があつてこそ、社会は進歩するもので、一元的な価値観は人の心を貧しくし、時には競争に明け暮れるみじめな社会を形成するものと考えます。

## 犬リーマン

さて、いよいよ各リーマンについて語っていきたいと思います。まず、犬リーマンの話です。

### 描写

- ① サラリーマンの王道をいく人たちです。
- ② 価値観は「上下の関係」を認識し、自分を中心に「損得」をその行動における規範とする人たちです。
- ③ 常識を大切にし、規制の体制を維持する事に長けています。
- ④ 同じ思考の人たちを大切にし、面倒見の良い上司になります。その部下は従順に上司に使えます。これは「他律的な規範」を認識している事を意味します。
- ⑤ 他の価値観を持つ人たちと一線を画します。

### 生い立ち

- ① 多くの人たちは経済的にも中流の家庭出身で育っています。
- ② 父親の職業はサラリーマンが多く、その生き方の基本的な情報は親の行動をみて学習します。
- ③ 父親が自営業を営んでいる場合は、幼少期から「損得」の価値観を身につけます。
- ④ 仲間を大切にし、社会人になってからも交友関係を大切にします。学生時代に体育会等に所属した人も多いです。
- ⑤ 一方、経済的には普通でも出自に劣等感を感じている人は上昇意欲（人の上に立ちたい）をもち、上昇の為に手段を選ばない人もたまに見受けられます。

### 強み

- ① サラリーマンで一番多いグループで、グループ内の先輩諸氏の後ろ盾もあり、順調にサラリーマン生活を過ごす事が出来る。一言でいえば「世間受けが良い」人たちと言えます。
- ② その結果、経済的な便益も得られ、組織内の地位も得られる。
- ③ 常識的な生き方は特に大きな危機も迎える事は少ない。更に、通常の危機に直面した場合周りに支えられる場合が多い。

### 弱み

- ① 基本的な価値観の違いはあるが、「一般的に、愛犬は人によって首輪をつけられてリードに繋がれている」、例えが悪いが、「全くの自由」は無い状況である事が弱みと考えます。
- ② 集団行動になれていて、「他律的な規範」は、しばしば「自律的な規範」を身につける事が出来ない傾向にある。
- ③ 体制を維持しようとする保守派なので、変化に対応する事が出来ない場合も生まれる。



## 機会

- ① 犬リーマンは人生において様々な機会に恵まれます。素直に育った人柄は世の中を代表する価値観が多くの人に支持されます。
- ② 社会人になってからも、人事部によって機会が与えられます。但し、競争社会による評価の基準によって処遇が異なります。
- ③ 大過なく勤めれば、それなりの地位を与えられます。

## 脅威

- ① 素直に育ったが故に、人生の様々試練に挫折した場合、立ち直れない場合があります。
- ② 犬リーマン社会の規律に順応出来なくなった場合も変節を繰り返します。
- ③ 一番大きな脅威は、犬リーマンは世の中の大きな変化に対応出来ない傾向にある事です。これは、もともと保守本流の人たちであり、変化より現状を維持するきらいから、変化の経験が少ないことから言えます。

## 適した職種

- ① 営業職
- ② 経営陣
- ③ どの職種でも対応できる

## 犬リーマン社会のルール

- ① 年功序列
- ② 先輩後輩の縦社会
- ③ 建前をわきまえ、本音は仲間内で
- ④ 仲間の悪口は禁句
- ⑤ 飲み会等の行事を重んじる

## 犬リーマンへの対応

- ① 逆らはない事
- ② 本音は見せない事
- ③ 怒らせない事

## 注意事項

- ① 犬リーマン社会には、先輩による「シゴキ」がしばしばあります。「躰」とも言います。
- ② 更に、組織の規律に反する場合は「イジメ」もあります。
- ③ また、組織内に「忠犬」がいます。これは、ほかのグループにもいますが「スパイ」です。
- ④ 年齢に関係なく「ずるい犬リーマン」がいます、部下（後輩）の手柄を横取りし自分の手柄にする輩です。組織がいつか解決します。我慢！

## 猫リーマン

次に、猫リーマンの話をしてします。

### 描写

- ① とにかく「自由」に生きたい人達です。
- ② さらに、「目立ちたい」人達です。 それ故に、「新しいもの」を求めます。
- ③ 価値観は基本の「損得」を理解していますが、「好き嫌い」が判断の基準になります。
- ④ 「上下の関係」より、組織・社会の「横のつながり」を求めます。
- ⑤ 他の価値観に対して一線を画すより、むしろ「無関心」でひたすら自分の「自由な生き方」を求めます。

### 生い立ち

- ① 比較的恵まれた家庭で育っています。
- ② そうでない場合でも、母親に大切に育てられています。
- ③ 幼少期から習い事に通っている場合が多い。
- ④ 学生時代はサークル活動をしている人が多い。
- ⑤ 社会人になってからも、趣味等で会社以外のコミュニティーに参加している人が多い。

### 強み

- ① 幼少期から「自由」な生き方をしているので、興味を持った分野での一芸に秀でている。「リードに繋がれている猫はいない」「犬の祖先が狼だとしたら、猫の祖先は虎と思われる」「不公平な話です」
- ② その結果組織内で専門職の機会が与えられた時に、その実力を発揮出来る。 新しい何かを発見し、評価を受ける事もあります。
- ③ 社交性もあるので、多様な人脈によってその中の実力者に引き上げられる機会、或いは救われる機会もあります。

### 弱み

- ① 「上下の関係」を認識しているが、「横のつながり」を好むために、時として「集団の規律＝他律的な規範」を逸脱するきらいがあります。
- ② 専門分野に捉われて、総合的な判断が出来なくなる事があります。
- ③ 時として、その天真爛漫な生き方に対して規律を重んじる「犬リーマン」からの排撃を受ける事がある。 しかし、その多くは致命的なものではなく、犬リーマンは猫リーマンに助けられる事があるのを認識しているので、最後まで追いつめることは少ない。 犬リーマンは猫リーマンの「自由な発想」をしばしば利用する。

## 機会

- ① 猫リーマンの機会は、自身が望む事と組織が必要な事が一致した時に最大のチャンスを迎えます。 犬リーマンから機会を与えられる場合が多い。
- ② その組織は必ずしも仕事に関するものではなく、趣味の世界かもしれません。
- ③ 一芸のみならず、多彩な才能をもつ猫リーマンもいます。 その時は人生を最大限に楽しみ、また周りから生かされる実感を得るかもしれません。

## 脅威

- ① 一番の脅威は外側の問題ではなく、本人の感情「好き嫌い」が昂じる時です。 感情をコントロール出来ない状況が生まれる時です。
- ② 本人の頑張りが周りから評価されない時に、上記の状況が生まれます。 それは「自分は組織には必要がない」というような自己嫌悪・自己否定です。
- ③ ある意味、猫リーマンは芸を競うわけですから、猫リーマン同士で競う場合は負けた方が陥りやすいです。

## 適した職種

- ① 専門職
- ② 技術職
- ③ 自分を最大限アピール出来る職種

## 猫リーマン社会のルール

- ① ある意味、実力社会
- ② 猫リーマン同士で、横にグループを形成しようとする
- ③ 基本華やかな行動
- ④ 陰で仲間の悪口
- ⑤ 猫リーマン同士の内輪の独自の行事（女子会等）

## 猫リーマンへの対応

- ① おだてるのが基本
- ② 行事には必ず招待
- ③ 怒らせない事（怒らせると、犬リーマンよりひどい怒り方を見せる）

## 注意事項

- ① 基本、プライドが高い。
- ② 犬リーマンより、仲間同士の結束が強い傾向にあります。
- ③ 仲間同士のいざこざは昂じると、かなりひどい「イジメ」があります。
- ④ 猫リーマンの中で上りつめた人は、意外に「上下の関係」を用い、権力を誇示する。 用心！

## 猿リーマン

猿リーマンの話です。

### 描写

- ① 一見すると犬リーマンと違わなく見えます。 幼いころから、物静かで寡黙の場合があります。
- ② 価値観は基本の「損得」を理解しています。
- ③ 基本的な価値観は「善し悪し」です。
- ④ 「上下の関係」も理解しています。
- ⑤ 犬リーマンと異なるのは「物事をありのままに見える」事です。

### 生き立ち

- ① 比較的恵まれた家庭で育っています。
- ② そうでない場合でも、手がかからない子供です。
- ③ 幼少期から一人で読書している事があります。
- ④ 人づきあいは悪くないですが、自分一人でも楽しめる事が多いです。
- ⑤ 社会人になってからも、多趣味でいろいろな事で楽しめます。仕事も無難にこなす事が出来ます。

### 強み

- ① ある日、突然「物事をありのままに見える」事が出来るようになります。
- ② 社会生活の中で、他人の言動、読書から自分自身で「気付き」を得るようになります。
- ③ それが良い方向に進めば、勉強熱心な子供になります。そうでない場合は「白けた」子どもになります。 勉強熱心な子供はやがて「物事の道理」を理解し始め、大人として成長します。

### 弱み

- ① 大人びた所作は周りから一目置かれると同時に、「異質な存在」として警戒される存在にもなりえます。
- ② 「白けた」子どもは、大人になってもそのまま、「ニヒル」な存在として認識されます。 言い換えれば、阻害される存在になります。
- ③ 犬リーマンから排撃を受ける場合があります。それは、犬リーマンは猿リーマンから見すかれていると気付いた時に始まります。

## 機会

- ① 幼少期から一目置かれる猿リーマンはその組織、学校、会社でも役目を無難にこなします。
- ② 特に会社組織では、幹部候補生として出世街道を歩みます。
- ③ 最終的には、経営陣の一角を占める事になります。

## 脅威

- ① しかし、その冷静な対応は犬リーマンの脅威とみなされる時状況が変わります。
- ② 特に上昇欲の強い犬リーマンからライバル視され、犬リーマングループから排撃を受けます。正に犬猿の中と言えます。
- ③ 白けた猿リーマンは組織で阻害されるかもしれません。時として、協調性を問われる場面があるからです。

## 適した職種

- ① 企画職
- ② 人事部
- ③ 経営陣

## 猿リーマン社会のルール

- ① 猿リーマンは自分より能力のある猿リーマンは自分から身を引く
- ② 猿リーマンは自分の特徴をむやみに多くの人に伝えないようにする
- ③ 基本、地味な行動に努める
- ④ 陰で人の悪口を絶対言わない
- ⑤ 基本的に猿リーマンである事を人から見抜かれないようにする

## 猿リーマンへの対応

- ① 普通に対応する
- ② 人の悪口、軽口を言わない事
- ③ 怒らせない事（怒らせると、口には出さないが！）

## 注意事項

- ① 猿リーマンは全てのタイプのリーマンを見抜けるので、その事を人に知られないようにする事が重要です。「見ざる、聞かざる、言わざる」が基本姿勢。
- ② 特に、犬リーマンは虎視眈眈と猿リーマンを観察している。時として、「忠犬、スパイ」を使う事があります。
- ③ 猿リーマン同士では、上の人には下の人には黙って身を引く事が重要です。
- ④ 但し、その猿リーマンが「悪意」がある場合は必ず対応する必要があります。

## 新種 鳥リーマン

新種 鳥リーマンの話です。

### 描写

- ① 犬リーマンと猫リーマンのミックス（混血）です。
- ② 価値観は「損得」「好き嫌い」の両方をもっています。
- ③ 彼らはその価値観を「楽しい、楽しくない」と表現します。
- ④ 「上下の関係」も理解しています。
- ⑤ 犬 50%から 70%、猫 30%から 50%です。

### 生き立ち

- ① 比較的恵まれた家庭で育っています。
- ② 子供のころから、なにかスポーツを或いは音楽をしています。
- ③ 明るくて、物おじしない性格です。
- ④ 賑やかな事が好きです。
- ⑤ 社会人になってからも、仕事に遊びに楽しさを求めています。

### 強み

- ① 仕事(ON)と遊び(OFF)の切り替えをうまく出来ます。
- ② 明るい性格からみんなに好かれます。
- ③ それが良い方向に進めば、よきリーダーになります。

### 弱み

- ① 親離れが出来ない場合があります。
- ② 昂じると、いつまでも「子供でいたい」症候群に陥ります。
- ③ 犬リーマンから可愛がられますけど、犬・猫リーマンの妬みを買うこともあります。

## 機会

- ① 人当たりの良さと明るさでリーダーに推奨されます。
- ② 犬リーマンから可愛がられます。
- ③ その社交性から営業部門で活躍の機会が与えられます。

## 脅威

- ① 最大の危機は、大事な仕事を任されるときに、趣味との兼ね合いで判断し、信用を失う事があります。
- ② 特に、シビアな部下はこの手の上司を厳しく見ているので、本人を通り越し上長に訴えられる事があります。 要領よくこなせるのは、強みであり弱みです。
- ③ 「親離れしない」場合はそれを理由に部門長にまで行きつけません。

## 適した職種

- ① 営業職
- ② 企画部
- ③ どの職種でも対応できる

## 鳥リーマン社会のルール

- ① 基本犬リーマンに従う
- ② 犬・猫リーマンに睨まれないように努める
- ③ 趣味に没頭しすぎない
- ④ なるべく、曖昧な発言は避ける
- ⑤ 能力以上の仕事は受けないようにする

## 鳥リーマンへの対応

- ① 明るく対応する
- ② 趣味の話で、時には盛り上げる
- ③ 怒らせない事（犬リーマンのスパイであるかも？）

## 注意事項

- ① 鳥リーマンは隠せない性格なので、行き過ぎを注意する。
- ② 保護者に近い犬リーマンを大切にする。
- ③ 犬・猫リーマンの妬みを買わない。
- ④ 猿リーマンは鳥リーマンの行き過ぎた動向には注意を払っている事を忘れないように。

## まとめ (Wrap-up)

さて、サラリーマンを4種類に分類して、その特性について話をしてみました。無論、これは相対的な評価で厳密に言うと分類は「恐らく」という枕詞がつくかもしれません。

仮説とはいえ、サラリーマンの分布は：

- ① 犬リーマンが一番多いと言えます。
- ② 新種 鳥リーマンは急速に増殖しています。「ゆとり教育」の産物かもしれません。
- ③ 猫リーマンは納得のいかれる解説と考えます。
- ④ 一番少ない分布の猿リーマンは手ごわい相手です。

以上の順序で分布しています。

かくいう、私は変節を繰り返しています。「・・・リーマン？」です。

身近な具体的な顔を思い出せば、この分類になるほどと言われる方が多いかもしれません。

さて、特に新任のサラリーマンの皆様にお伝えしたいのは「コミュニケーション」の大切さです。是非！この事を肝に銘じて、ご活躍いただければ幸いです。

以上で、私の話は終わりたいと思います。  
長らくの購読に対してお礼を申し上げます。

尚、小職の専門分野であります「マーケティング」についてまとめた本もこのサイトにて無料で公開しております。ご興味のある方は、是非ご高覧いただければ幸いです。

日本語 「マーケティング規範」 マーケティングの基本・管理・応用

英語 「Marketing Norms」 分かりやすい英語にてマーケティングを解説